



### アド・リミナ報告

ベルナルド・勝谷太治 司教

今年4月に9年ぶりとなる日本の司教団のバチカンへの定期訪問(アドリミナ)が行なわれました。本来は5年ごとですが、コロナの影響もあり延期となっていたのです。期間中、司教たちは、バチカンの各省庁を回り、日本や各教区の報告や意見交換等を行ってまいりました。

期間最終日、教皇様との謁見が行なわれました。従来ですと、各司教一人ひとり面談が行なわれていたのですが、前回のアドリミナから、フランスシコ教皇は全司教と車座になり、たつぷりと時間を取っていろいろな話題について話しをするようになりました。車いすで部屋に入ってこられた教皇様は私たちの席の近くまで来て立ち上がり、自分で杖をつきながら時間をかけて自席まで歩いてこられました。席に着くと、緊張の面持ちの司教たちに向かって冗

談つづく、「コーヒーを飲めなければ自由に、トイレはあちらにあるのでいつでもも行ってください。私たちは人間ですから」とおっしゃって緊張を和ませてくださいました。そして書類で提出していることは後で確認できるので、形式的な取り取りを省き、すぐに自由な意見交換が行われたのです。多くの事柄について忌憚らない意見交換がなされましたが、詳細については触れることができません。

最後に「キリスト者として生きていくためにユーモアを忘れるな」と茶目つ気のある笑顔で語られ、そして、「私のために祈ってください」と真剣にわたしたちに願っておられました。これは、私たちが司教団に対してだけでなく、日本の信者に向かってお願いされたことだと感じます。皆さんの祈りもお願いいたします。



#### アド・リミナ【ad limina】

ラテン語で「使徒たちの墓所の訪問」を意味する言葉の略称。教区司教が5年に1度、聖ペトロと聖パウロの墓を巡礼し、教皇に謁見して、担当する教区の状況について教皇に報告書を提出するもの。今回は2024年4月8日～13日迄。日本の司教団訪問の様子はカトリック中央協議会のウェブサイトやYouTubeなどで見ることができる。  
<https://www.cbj.catholic.jp/2024/04/09/29427/>

### 東京教会管区会議(群馬県・渋川市)

6月18日～19日、東京教会管区会議(札幌・仙台・新潟・さいたま・東京・横浜の6教区の司教・事務局長会議)が開催され、勝谷司教、松村事務局長が参加した。

この会議では、日頃から教区が抱えている問題や課題を共有し、解決策に向けた情報交換が行われた。普段司教会議で話される内容は、日本のカトリック教会としての公式な議論が多いが、事務局長や事務担当者が入ることにより教区運営について細かな話し合いが行われた。



梶

主な議題は各教区の現勢報告に加え、抱えている財政問題や人材不足の対応策、シノダリティの姿勢、ハラスメントの対応、ベトナム人オンライン司牧など。

休憩中には事務局長たちが日ごろの業務内容についてもアドバイスをし合った。参加した松村神父は大阪や札幌での経験をもとに、宣教師の入管手続きや教区が持つ不動産への対応、独自に作った墓じまいの祈り、教区行事時の典札用具の入手、各種法整備(規約・規程)の問題についても分かち合い、今後事務局長同士で連絡を取り合い、得手不得手を補い合えるようにとの意見も交わした。

また、昨年の管区会議の場を通して、札幌・仙台・新潟教区連合によるベトナム人へのオンライン入門・結婚講座が実施できるようになったこともあり、教区を越えた新たな動きが始まっている。今後は教区単独だけでなく、他教区と連携して働いていくことに期待したい。

(教区事務局長・松村繁彦)

## 全道司祭大会

6月4日～6日、全道司祭大会が開催された。会場は札幌北広島クラフツホテルで最終日の派遣ミサは北広島教会で行われた。参加した聖職者は司教・司祭・助祭・修道者を含め昨年よりも4名多い34名であった。今年もフランススコ会管区長の桑田神父が東京からオブザーバーとして参加した他、新たに司牧協力者として札幌西ブロックで働かされているシスター松宮（コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会）も参加した。



ニヤー神父

今回の大会テーマは「外国から日本に來られた方に対する司牧について」ベトナム人々」であった。イエズス会修道士で麹町教会の助任司祭でもあるヨゼフ・グエン・タン・ニヤー神父に講師を務めていただき、ベトナムのカトリック教会の歴史から現代のベトナム人信徒の信仰までお聞きした。

まず、日本で迫害され追放された宣教師が、ベトナムに渡り宣教を続けていたことを聞き、日本のカトリック教会とのつながりを知ることができた。また、日本に來ているベトナム人信徒の信仰について聞き、とても強い信仰を持つていることや、聖体拝領や結婚など



の秘跡に対し厳格な意識を持つて理解することができた。大会の中で司祭の動向が発表され、叙階60年のダイヤモンド祝の司祭3人（第42号で報告済み）をお祝いし、また叙階70年のドミニコ神父についても月形藤の園で元氣であると報告された。最終日のミサは勝谷司教が司教會議により不在であったが、司教総代理の今田神父が司式し、叙階60年のマンフレード神父のユーモアあふれる説教で締めくくられた。また来年の集まりに期待したい。（佐藤謙一神父）

## 教区宣教科司牧評議会

教区宣教科司牧評議会が、6月8日（土）札幌教区カトリックセンターで開催され、対面18名、オンライン8名、計26名が参加した。

勝谷司教の祈りから始まり、冒頭の司教報告では、札幌教区司祭の動向について触れ、教区から離れる司祭がいる一方で、フィリピンや韓国から札幌教区で働くために司祭が来道するとい



う嬉しい情報も報告された。続く議事では、2024年5月末で任期が終了した評議員メンバーの確認が行われたあと、主な議題である「一粒会」設置とその規約についての協議が行われ承認された。会議の中で一粒会設置目的について「教区全体で教区で働く司祭・修道者のために祈り、支え、そして自ら生み出していく」ことを意識するためである旨確認された。司祭の高齢化と減少により司牧現場が危機的な状況にあることから、一粒会によって教区全体の意識高揚に繋がることが期待される。（佐久間力神父）

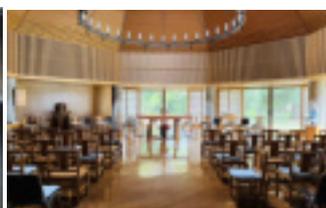
## 日本カトリック神学院に

教皇庁福音宣教省は2024年3月に、東京カトリック神学院と福岡サン・スルピス大神学院を一つの日本の神学院、日本カトリック神学院とすることを決定し、4月から両神学院の学生が旧東京カトリック神学院の校舎で養成を受ける事となった。

かつてはそれぞれの神学院が独自養成をしてきたが、2009年に一度合併、その後2019年には再度分割され、2校体制となった。しかし召命減少や講師不足などもあり、改めて一つの神学院、日本カトリック神学院となって再出発することとなった。

神学生は1年の予科を1学年だけで過ごし、2年目から他の神学生たちに交じって共同生活を行う。最終学年の助祭で、助祭の学びや最終試験を受け、卒業後に各出身教区に派遣され叙階の秘跡を受ける。この度、初年度養成にあたる予科生の為の予科棟も設立され、6月から落ち着いた雰囲気の中で養成が行われていた。

（教区事務局長・松村繁彦）



## ドミニコ神父様プラチナ祝



ドミニコ・ハウア神父 / BAUER, Dominicus Alois  
1923年12月19日ドイツ・ツィーゲンハイン生まれ。  
1954年4月25日叙階。1956年10月6日來日、大町・名寄・砂川・末広・羽幌・士別・滝川の各教会歴任、教誨師も務めた。2014年現役引退。2022年2月16日月形藤の園入所。

遠く昔、ドイツのフルダ地区から多くのフランシスコ会の兄弟たちが北海道に、旭川に、最初の宣教地として派遣されてきました。100歳までこの地で働き、多くの人々と親しく交わり愛されるドミニコ神父様。私たち兄弟として感謝の気持ちを伝えるとともに、皆様にも喜びと感謝を分かち合っていただけたらと思います。（フランシスコ修道院長・長尾俊宏神父）

2024年度 教区関係機関 担当司祭一覧

◎運営委員長

2024年6月5日現在

委員会名等		役員・委員名	任期	備考
宗教法人責任役員		勝谷 太治 司教	3年	教区長 代表役員
		今田 玄五 師		
		祐川 郁生 師		
		佐藤 謙一 師		
教区顧問会		今田 玄五 師	5年	司教総代理
		上杉 昌弘 師		北見地区長
		祐川 郁生 師		函館地区長
		佐藤 謙一 師		札幌地区長
		ライヤ 師		メリノール会
		間野 正孝 師		フランシスコ会
		松村 繁彦 師		事務局長
<b>教区司祭評議会</b>				
	司教総代理	今田 玄五 師	3年	司教総代理
	事務局長	松村 繁彦 師		事務局長
	札幌地区 ◎	佐藤 謙一 師		地区長
		間野 正孝 師		
	北見地区	内藤 孝文 師		地区長代理
	釧路地区	川上 剛 師		地区長
	旭川地区	佐久間 力 師		地区長
	苫小牧地区	養島 克哉 師		地区長
函館地区	祐川 郁生 師	地区長		
<b>教区宣教司牧評議会</b>				
	司教総代理	今田 玄五 師	2年	司教総代理
	事務局長	松村 繁彦 師		事務局長
	札幌地区	佐藤 謙一 師		地区長
		後藤 義信 師		
		間野 正孝 師		
	北見地区	内藤 孝文 師		地区長代理
	釧路地区	川上 剛 師		地区長
	旭川地区 ◎	佐久間 力 師		地区長
		ナルチゾ 師		
	苫小牧地区	養島 克哉 師		地区長
	ライヤ 師			
函館地区	祐川 郁生 師	地区長		
<b>教区委員会</b>				
	財政委員会	松村 繁彦 師	2年	現在休止
	青少年委員会	佐久間 力 師		
		千葉 充 師		
	教区神学生養成委員会 ◎	祐川 郁生 師		
		佐藤 謙一 師		
		桶田 達也 師		
		ライヤ 師		
	典礼委員会 ◎	佐藤 謙一 師		苫小牧地区
		李 動珍 師		札幌地区
		今田 玄五 師		函館地区
		プロボ 師		旭川地区
		上杉 昌弘 師		釧路地区
	広報委員会	松村 繁彦 師		北見地区
	聖書委員会	養島 克哉 師		司祭委員 佐藤・佐久間
	学校支援委員会	上杉 昌弘 師		司祭委員 松村
	社会委員会			司祭委員 松村・佐久間・養島
	難民移住移動者委員会	祐川 郁生 師		
ベトナム人司牧担当	チャン・タン・ラム 師			
カリタス・ジャパン	松村 繁彦 師			
札幌カリタス	佐藤 謙一 師			
正義と平和協議会	養島 克哉 師			
エキュメニカル	養島 克哉 師			
<b>月例関係</b>				
	月例静修委員会	新海 雅典 師	2年	
		千葉 充 師		
		佐久間 力 師		
<b>その他</b>				
	ハラスメント対応デスク 担当	松村 繁彦 師		
	ハラスメント対応デスク 対応委員会	担当司祭を置く		(非公表対応)

## 2023年度 カトリック札幌司教区本部一般会計 決算書

( 2023年4月1日～2024年3月31日 )

収入の部			
勘定科目	予算額	決算額	摘要
分担金収入	80,040,000	80,055,000	
教区本部分担金（札幌地区）	53,000,000	53,000,000	
教区本部分担金（苫小牧地区）	5,690,000	5,690,000	
教区本部分担金（旭川地区）	7,260,000	7,325,000	前年分1件
教区本部分担金（釧路地区）	3,330,000	3,280,000	減額1件
教区本部分担金（函館地区）	9,060,000	9,060,000	
教区本部分担金（北見地区）	1,700,000	1,700,000	
一般寄付金	5,000,000	5,854,787	修道会・墓地献金他
特別寄付金	0	63,416	移住移動委のため
司祭寄付金	0	1,000,000	司祭1
広報の日献金振替収入	400,000	354,807	広報の日献金収入の50%
難民移住移動の日献金振替収入	400,000	365,081	移住移動献金収入の50%
その他援助金収入	0	0	
受取利息配当金収入	500	363	
賃貸料収入	4,200,000	4,206,000	カトリック学園家賃・電柱地代
特定積立金取崩収入（一般口）	5,000,000	4,840,000	白石2号墓分
特定積立金取崩収入（青少年）	1,100,000	1,100,000	
特定積立金取崩収入（管理口）	12,500,000	7,860,000	管理部門経費一部
特定積立金取崩収入（司祭口）	2,800,000	2,490,000	司祭車両手当1/2
退職積立金取崩収入	0	0	
祭儀献金収入	32,000,000	36,097,300	司祭・フランシスコ会より
未収入金	0	0	
雑収入	300,000	208,800	移住者連帯NW他・職員派遣謝金
計	143,740,500	144,495,554	
前年度繰越金	10,182,769	10,182,769	
合計	153,923,269	154,678,323	

支出の部			
勘定科目	予算額	決算額	摘要
宗教活動費支出	5,100,000	7,420,965	
祭儀費	600,000	2,342,775	司祭葬儀・典礼書・聖香油ミサ他
図書資料費	200,000	115,958	カトリック新聞・NHK他
教区宣教活動費	3,000,000	4,147,274	正平協・青年の家・教区宣司評他
国際協力活動費	1,300,000	814,958	移住移動者委員会
一般寄付金支出	22,500,000	22,749,900	フランシスコ会へ
宣教省献金支出	1,000,000	1,000,000	
分担金支出	1,560,000	1,678,000	
中央協議会分担金	960,000	960,000	
東京管区裁判所経費分担金	100,000	218,000	
放送分担金	500,000	500,000	こころのともしび
本部援助金支出	0	0	
人件費支出	64,670,000	58,731,759	
本部司祭給与	44,690,000	40,680,750	給与賞与21名・車両手当17名
本部司祭法定福利費	4,880,000	3,866,007	
本部職員給与	13,100,000	12,208,780	職員3名・パート2名（内1名北1条と折半）
本部職員法定福利費	2,000,000	1,976,222	
退職金	0	0	
運営管理費支出	31,730,000	25,492,241	
業務委託費	9,500,000	10,574,715	賄い・清掃費・会計ライセンス他
施設設備修繕費	2,500,000	2,061,730	駐車装置保全・排水修理他
備品修繕費	100,000	12,760	湯沸し修理
墓地管理料	800,000	246,000	白石プレート・マリア像雪囲い
損害保険料	600,000	583,550	火災保険・賠償責任保険
消耗品費	1,000,000	1,261,680	事務用品・PCソフト・3階リネン他
通信運搬費	1,000,000	965,261	電話・FAX・ネット他
会議費	100,000	66,022	8回
渉外費	200,000	120,155	外部慶弔・来客司祭接待他
慶弔費	100,000	20,900	葬儀供花・司祭花束
旅費交通費	1,000,000	1,091,830	司教司祭出張旅費
光熱水費	7,820,000	5,195,328	電気・水道・ガス
公租公課	30,000	33,050	印紙税他
報酬手数料	3,000,000	1,136,736	会計士・社労士・振込料他
賃借料	1,000,000	862,140	電話機・PC・複合機リース
車両費	500,000	221,097	ガソリン代
広報費	2,000,000	629,936	教区NEWS4回
福利厚生費	450,000	403,036	司祭職員健康診断他
雑費	30,000	6,315	ゴミ処理他
建物取得支出	0	0	
建物付属設備支出	0	0	
構築物取得支出	5,000,000	4,840,000	白石2号墓
機器備品取得支出	300,000	0	
退職金積立支出	750,000	750,000	職員退職積立3名
営繕等積立金繰入支出	15,000,000	15,000,000	センター積立
予備費	6,313,269	0	
計	153,923,269	137,662,865	
次年度繰越金	0	17,015,458	
合計	153,923,269	154,678,323	

# ハラスメントのない教会共同体をめざして

## ～教会におけるハラスメント意識調査～

### まとめ【後編】

【後編】は被害者の声を中心に紹介する。次号【総括編】は調査結果から見えてきた「課題」と「改善の道筋」を探る。

ハラスメントの具体的な内容については前編で掲載したが、後編では、それらのハラスメント被害者達の声を掲載する。紙面の都合上全員の記述を掲載することはできず、また、加害者や被害者、人や場所等が特定されないよう、一部文章を変更し抜粋掲載している。

#### (1) ハラスメントを受けた後 どう行動したか

全回答者584人のうち237人41%が「教会内で、いじめ、いやがらせ、ハラスメントがあ

ると思う」と回答しており、そのうち158人が「自分がされた」という被害者である。これらの人に「ハラスメントを受けた後どう行動したか(問11イ)」尋ねたところ、「信徒に相談した」「どこにも相談できなかった」と回答した人が回数39%で最も多く二極化している。被害者の具体的な行動は次の通り。

##### ▼加害行為者へのアクション

「本人にも伝えた」「無視した」「言い返した」「その場をはずした」「それはおかしいと反論して奉仕を辞めた」「その場で人権侵害に当たると伝えたが取り合ってもらえなかった」「対立し和解した」

##### ▼第三者へのアクション

「警察に届け出た」「当初は誰にも巧く話せなかったが友人には話せた。30年経つてようやく教区事務局へ手紙を出した」「役員会で話した」「そのことに関わる部の部長に事実を話した。相談ではない」「当時の司祭が私を怒鳴った信徒と話し合いをした。その後司祭への風当たりが強くなった」

##### ▼教会から距離を置く

「教会ではミサが終わったらすぐ帰宅するようになった。教会(ミサ)に行くのが苦痛になった」

「自分は間違っていたことをしていないと思いい教会から離れなかったが、もう一人の人は教会に来なくなった」「教会から離れた」

##### ▼何もせず我慢した

「そのうち本人が気づくこともあるかと思いついて我慢した」「その時はただびっくりして何も言えなかった」「あえて人には相談しなかった」「どこにも相談する気はなかった」

#### (2) 相談して良かったか どうか分らない

ハラスメントを受け誰かに相談したという回答者106人へ「相談して良かったか(問11ロ)」の設問の自由記述は次の通り。

##### 【相談して良かったかどうかから47%】

▼「悩みを共有してくれたが解決には至らなかった」「話すことで自分の心は少しは軽くなるが解決にはならない」「もしかしたら解決するかもしれないと思ったが、やはり解決することはない」「相談相手は介入できない立場なので何の解決にもならなかった」「どうにもできなかった」「信者同士で愚痴に終わってしまう」「以前相談した時に『よくあること』とスルーされた」「何も

変わらなかったのが教会から離れた」など、問題解決に至らなかったという記述が多い。その理由として「加害者達の自覚の問題。多分全くない」など、加害者のハラスメント意識の低さを指摘する声にも多く寄せられている。また、「当時は加害者への周囲の評判がよく、恐ろしくてどうしたら良いかわからなかった」など、加害者を良く思う周囲の圧に怯える声や、「すでに深く傷つき教会に行けなくなった(半年間)。とても辛くて何の慰めも受けなくなりました」「信徒でない友人や家族に話したことは教会の恥をさらすことでもあり、宣教の逆のことをしてしまったと思う。けれどもそうせざるを得ないほど悲しく辛いことだった」という苦しい思いも綴られていた。

##### 【相談して良かった43%】

▼「同じ行為を受けた人は他にも複数いたので気にしなくなった」「こちらに問題がないと改めて確認できてすっきりした」「解決はしないが理解者を得た」など、状況整理ができたことや、「いつまでも嫌な気持ちを引きずりたくなかった」「自分ひとりで抱えると辛いので話すだけでも良かった」「相談すること

で気持ちが楽になった」「まず自分の気持ちを楽にすることができ、そのあと冷静になることができた」「心が穏やかになった」「その人がいるのでミサに行きたくないという私に、『信仰とは神様に対してのこと』という助言で、加害者には挨拶だけに」「道内司祭は聞きたくないと否定されたので道外司祭に聞いてもらい心落ち着いた。皆本当のことを相談できない方々ばかり」など、心情整理ができることが挙げられており、相談者の対応が被害者の立場に沿った対応であったことが窺える。

##### 【相談すべきではなかった7%】

▼「神父が言うには『仕掛けた人は友人もいるし、そんなことする人でない。他人に言うの大事になる』と止められた」「修道者へは相談するべきではなかった」「何も前に進んでいない」などで、二次被害を受けている状況も記載されていた。

#### (3) 自分が我慢すれば良い 何をしても解決しない

ハラスメント被害を誰にも相談できなかった回答者62人へ「相談できなかった理由(問11ハ)」を尋ねたところ、「自分

が我慢すれば良いと思った52%」「何をしても解決しないと思っただけ」と、**相談以前に解決をあげらめている回答が上位を占め**、「行為者が更にエスカレートすると思う29%」「自分が不利益を被ると思った18%」など、**自身の立場が追い込まれる心配を挙げる人も多い**。また、相談したくても「どこへ相談すれば良いか分からなかった19%」や、相談しようと思っても「ハラスメントデスク相談窓口が教会職員であり信用できない」「ハラスメントデスクへ相談することで自分が何か不利益を被るのではないかと思った」など、**デスクの認知度の低さや信憑性を問う声も寄せられた**。

#### (4) ハラスメント行為を

##### どう思うか

ハラスメント行為についてどう思うか、ハラスメントを「した・受けた・見聞きした」回答者221人への設問(問12)で「その他」44%を選択した回答者の具体的記述は次のとおり。

▼【自分で対処するしかない】  
「神父に相談して取り合ってもらえなかったので耐えること

にした」「あげらめるしかない」「教会を異動することが決まっていたので、この人達と同じ土俵にはのらないと思いい無視した」「毅然とした態度で対応できなかった自分も悪かった」「宗教は力があれば何をやってもいいので嫌なら辛抱するしかない」「いじめやハラスメントであっても神様に捧げて祈れば忍耐するうちに解決できると思った」

▼【相手に問題がある】  
「相手は問題があることに気づいていないと思う」「している本人は当然とっておりに注意しても聞き入れない」「はっきりいじめと認識できた。小1の子どもへのそれは何の解決も得られなかった」「相手が一人で何でもするので受け入れられなかった」「承諾していないのに承諾したかのように受け取られる」「自分が正しいと信念を持っているので手に負えない」「男性・役員で力弱い人を封じようとするタイプの人がそのような行為に及ぶのかと思う」「キリスト者としての自覚がない」「信徒歴が長いことで優位な発言や行動をしている」「相手の根性が悪いだけのこと」「個人の人間性の問題」「信仰が薄い」「信

徒として長く教会にいる割に自分の感情を止められない人が思ったより多い」「想像力不足と無知」「相手の性格は変えられない」「そのような行為は行うべきではない、特にグループを作つて一人に攻め立てるのは卑怯である」「信徒(キリスト者)としてありえない行為、神の教えをどう受け止め何のために教会に通っているのか疑問を感じる」「教会にいけなくなるほどの苦痛を受けることは紛れもなくハラスメント、相手が気づいていないことが恐ろしい」「私が主任司祭や役員に意見したことは恥をかかせたことだったかもしれない。でも教会運営上必要だったとも言えます。私が見聞き、受けた言葉や行為はセクシュアルハラスメント・パワーハラスメントだと思います」

▼【あつてはならないこと】  
「教会神の家であることを考えると絶対にあつてはならないことと考えます」「不愉快だ」「絶対あつてはならない。自分たちが気に入らない司祭に対して陰で呼び捨て悪口を言ったり目に余る。同じカトリック信者として恥ずかしい」「改善するべきことと思います」「教会で

もいかなる組織でもいじめはあつてはならないこと」「よくあつてはならない、教会運営上必要ならわけない」「個人の思想や人格を否定するような大変失礼な扱いに感じられる」「ハラスメントである」「される側にも問題があるから…という人がいるが、どんな事があつても認められない」

▼【教会から人が離れる】  
「ハラスメントには当たらないが、それらを受けたことによりいじめられ感を感じ、教会から離れるきっかけになってしまふと思う」「そのことが原因で教会を離れる人が多くなつてはいけな

いと思う」「私は我慢して通いつつ洗礼を受けたが、他の人は来なくなつてしまつた、洗礼志願者が少ないのはこうした理由だと感じる」「教会へ行くことが嫌になり離れるきっかけとなつてしまふと思う」

▼【相互理解の努力必要】  
「様々な考え方の人の集まりなので、お互いを理解しようとするのが大事」「相手への思いやり、尊敬の念、尊重する姿勢が大切だと思う」「シノドスの意識を持つて良い方向に歩み始めることを期待します」「見ただけで暗い気持ちになる、互いに大切にすることが出来ないのは教会ではないと感じて行く気持ちが消えそつになる」

▼【犯罪である】  
「怪文書による脅迫は犯罪だと考えます」

▼【苦痛だ】  
「口論が続きましたが、びつくりして何も言えませんでした」「圧迫を感じた」「なぜ信者が？みんなの前で素晴らしい話をするのに…長い間苦しみました。今は高齢で教会はそういう人の集まりだと感じています」

▼【教会に愛がない】  
「典礼の学びに熱心なあまり、中央協議会の講習や本州の大きな教会で行っていることを所属教会で押し通すやり方は分裂と混乱を招く。カトリック教会にとつて典礼は大切であるが、アガペーを失つては典礼の意義を失う」「教会に愛がない、愛が冷え切っている」「教会の活動の意味を見失いがちに思えます」「愛を掲げる教会に愛に飢えた人が集まり、そこに悪魔が活動するの…祈るのみです」「神の家である教会で、このようなことが起ることは普通ではない」

▼【その他】  
「司祭が信徒を子ども扱いしているように感じる」

「年代的に『よくあること』と耐えてきたが、今では立派なハラスメントだと気づいた」「聖職者のイニシアティブが弱いため」「宗教者として情けない行為と思う。いじめやハラスメントが多発していた時期、当教会は司祭に相談できる状況にはなかった」「教会共同体の中で蔓延しているように感じるのはいかなるわけでもない、小教区にはありがちなことと理解している」「見苦しいと思う。周りにいた他の信者の方々の対応がそれぞれすばらしく、教会ではハラスメント行為をする人を排除してはいけないうらんだと考えさせられました」「たとえ相手が悪い行為をしたとしても感情的な行動は慎むべき、気づいたら謝罪すべき」「パワハラ等は連鎖、蔓延するのでよくあることだからこそ誰かが異を唱えないとならない」「相手が病気だったり弱い立場だと言われやすいのでハラスメントに該当するものもあると思います」「個人の問題だと思いが…」「社会よりも強弱が大きく育ちの問題も見逃ごせない」「人権が尊重されるための学習が必要」「あつてはならないことだと思つと同時に

『人間の集まりだからなあ…』とも思います」

### (5) ハラスメント被害者の苦しみと叫び



①【児童虐待】▼今まで言う機会がなく、信仰の下に耐えてきましたが、本心は児童虐待で訴えたい。加害者を処分してほしい。いまだに加害者がいるので、トラウマを受けた子供たちはミサには行けません。それが一人ではなく何人もいます。司祭は次々異動で変わり、問題は薄れるばかりです。子供たちの心は誰が救うのでしょうか。



②【児童虐待】▼10年以上前の教会学校・侍者のための会でのことです。ミサが終わり香部屋に戻ると、子どもたちは顔や体を指導者に殴られていました。当時の役員は見て見ぬふり。その子供たちは今は教会に来ていません。児童虐待していた人間が聖体奉仕をする、ミサを進行させる、そんな教会は誰も行きたくありません。



### ③【児童性虐待】▼私（男性）

は少年期から青年初期の頃、ある司祭から性虐待を受けたサバイバーです。あまりに強烈な出来事だった故にそのことは自分の中に封印して生きてきました。近年思い出さざるを得ない状況にあり、どうしても辛く耐えられないことから、初めてその事実を限られた何人かに打ち明けましたが、やむを得ず打ち明けただけで、この先、誰かに話そうとは全く思っていません。性虐待という問題は加害者被害者だけの問題ではなく、両者を取り巻く多くの人への精神的影響があまりにも大きいと思われ、それを思うと口を開こうという気持ちにはなれないのです。それらの人との関係を平穩に保てるのであれば、私はこの先も封印しようと思つています。多くの被害者は教会から離れていると思われませんが、私のようなサバイバーも現に存在しているのですから、教会が本当に被害者に対して真摯に向き合おうとするならば、サバイバーの声を聴く努力をしてほしいと思います。『どうぞあなたの声を直接聞か

せてください』と言つてほしいのです。



### ④【セクシュアルハラスメント】

▼教会でのあるお手伝いの時、男性信者からいきなりお尻をつかまれた経験があります。その人は今は教会に来ていないので安心していますが、言わずにいる人は他にもたくさんいると思います。男性信者がいきなり女性信者に覆いかぶさるのを見たこともあります。ふざけている様子ではありませんが、女性信者は不快な様子だったようです。男性は信者（あるいは求道者、神父）として、教会というところはどこかというところなのか、女性に対してどういう態度をとるべきか、個々人の意識改革を切に願います。祈りの場であり神聖なところであるということをお忘れしないでほしいです。



### ⑤【パワーハラスメント】

▼ある司祭からパワハラを受けました。司祭といつてもいろいろな人がいると思つていましたし、「自分の方が良く知っている、あなたはわかっている、

い。」と言われると、信者歴の浅い私にはまだまだわかっていないことがあるのだと思うようにしていました。大概は二人でいる時でしたが、ある時から他の人もいる前で言われるようになりました。話を始めると止まりませんし、話の途中で口を出そうとすると「まだ話は終わっていない」と怒られました。

「司祭を嫌いだ」と思う自分も悲しく、なぜ怒られるのかわからず、家族が出かけた後に、一人膝を抱えて泣いたこともありましたが、司祭は、私にだけ怒りをぶつけていたのではありませんでした。自分を敬ってくれる人は大切に、そうではない人は排除していました。既に教会を離れた人もいましたし、「怒りの矛先が今日は私に来ませんように…」と怯えるような気持ちで主日のミサに与っている人もいたようです。



### ⑥【二次被害・宗教ハラスメント】

▼傷つく思いを相手に伝えると否定される。周りに相談しても否定される。あなたの思い過ごし、あなたの考えが間違っている、相手を非難している、

相手を悪くもっている、捻じ曲げてとっていると言われる。奉仕を強要され断ると、奉仕する気持ちがないのか、決まったことに従わない、断ることは傲慢、自意識過剰と言われ、聞き入れてくれない。信徒として苦しみを受け入れなければならぬ。傷つけてくる相手であっても、受け入れなければならぬ。愛さなければならぬ。寛大でなければならぬ。辞めたいわけではないけれど信者を辞めることができないという思いに苦しめられる。



⑦【障がい者差別】▼知的障害や発達障害のある信徒に対して、他と違うことについて理解できず、辛くあつたり、能力以上のことを要求したりしている場面を見聞します。セクシヤリティなども含め、自分と違う存在を理解し受け入れ、皆でそれぞれの良さを見つけ伸ばしながら教会活動をしていけると良いと思います。自分イコール他人ではなく、それぞれに背景、事情、性格や生活があり、どこまで踏み込んで良いかも違うと思います。私自身も周囲にあまり知られたくないことがあったの

ですが、勝手に口外されました。その方は良かれと思つてのことだったのでしょうが、私は傷つきました。勝手に思い込まれると、周囲にあまり知られたくないという私の気持ちは理解してもらえません。人それぞれ色々な考え方、価値観があり、自分の考え以外のものをもつと知り、理解し配慮していく必要があると思います。



⑧【障がい者差別】▼信仰生活の長い方から「手話通訳を見ていると違和感がある。そう言っている人は何人もいる」と言われました。つまり、手話が邪魔、見えないところであつてほしいということとです。手話言語は聾者にとつて、命・人権を守る大切な言語です。手話通訳者及び聾者が前列に座る特性ですから、聾者は手話通訳を受けている間は目だけの情報で全てをキャッチします。つまり、手話通訳者を通して、ミサの全て（神父や侍者の動きなど）も視界に入るように見えているのです。その保障が奪われることは、人間の尊厳が奪われることです。多様性と言われますが、それぞれの特性を理解することが必要ではな

いでしょうか。



⑨【個人情報流用】▼個人情報の取り扱いや、ジェンダー問題への意識がアップデートされていません。年配の方々なので仕方ないと思う反面、性別や職業で決めつけた発言をされて傷ついたり、個人の電話番号などを不必要に役員間で共有されるなど、所属教会への不信感を感じることがあり、教会から足が遠のいています。教会にもよるのだと思いますが、若者の居場所ではないと感じます。



⑩【被害者の想い】▼教会は恐ろしいところだと考えてしまうようになりました。一般社会の学校や会社などより教会の人の方がたちが悪いのかもしれない。教会に属している人はその教えの下にいますので、教会は善良な場と言う前提の下、無法地帯のような一面があります。何かあえてルールを設定しなくても、誰もひどいことをするはずがないから大丈夫な場所だと誰もが思っているのではないでしょう。しかしそこでハラスメントや嫌がらせを受けると、まさ

にいつ何が起るかわからない、何が起きても不思議ではない恐ろしい場所が教会だとしか私には考えられません。神様と私の家族の関りにおいて恐ろしいことはなくても、そこにいる人々を見ると恐ろしいことがたくさんあるとしか思えません。



⑪【被害者の想い】▼コロナが少し落ち着き教会では信徒同士の交流が大切だという動きがありますが、教会でのハラスメントを体験した身には別次元の話でそれどころではないです。ミサが終わったなら、何か嫌な目に合せつつかくの日曜日を台無しにしなくて済むように、教会にこれ以上嫌なイメージを持たなくて済むように、長居は無用とばかりに帰ります。職場や学校は規則や校則があり、自分の待遇や成績に反映されることもあり、きちんとしたところではハラスメントやいじめに対して対策しやすいですが、教会には規則も勤務評価も成績もないのでハラスメントやいじめはたちが悪く陰湿だと思えます。だから改善は難しいと思います。自分もハラスメントの餌食だし、餌食になっている人を知っている

ので、身に染みて思ういます。



⑫【被害者の想い】▼ハラスメントにあつた時は、心身共に痛み、教会に入ろうとすると足が震え呼吸も苦しく吐き気に襲われる苦しい日々でした。家族には話しましたが、ただひたすら神様の助けを願い、自分の役目を果たすのみの期間が5年以上も続きました。徐々に平安を取り戻しあれから何年もたちますが、今は笑顔でミサに与れて感謝の日々を過ごしております。司祭は何でもご注進、ご注進と報告する信徒や役員の告げ口を信じ、自分の目でしっかり観ないで一方的に言葉を発し対応するのはすくく危険だと思えます。司祭や信徒の言葉で教会から離れてしまった方がいるのは事実です。心に留めておいてほしい。

まとめ【後編】は教区ホームページからダウンロードできます。分ち合い等で是非活用ください。次号は【総括編】を掲載予定。【前編】の集計結果からは見えてこない意識差(性別・年代別他)を軸に、「表面化しづらい実態」や「相談できない環境」などの課題について、改善に向けた道筋を探ります。

# 教会(堂)の資金を考える

教区事務局長 松村繁彦

## ●頂いた教会堂

日本の教会(堂)の多くは、海外からの宣教師や修道士のおかげで建てられました。それぞれの国(特に西ヨーロッパ諸国やアメリカ等)の信者(恩人)による献金を持ってきてくれたおかげです。私たちはその恩恵を受けてきました。しかし、昨今の日本の教会(堂)は、次々に統廃合・廃止が各地で始まっています。なぜならば新築する力が日本の教会にはないからです。このように日本の教会の動きは、最初の時から頂き物で活動する教会となり、また外から頂くことが当たり前となって歩んできた歴史を持ちます。

## ●積み立ての必要性

本来建物を建てた場合には、減価償却積立をし、建物耐用年数が来た時に、再度新たに建てることできるように資金を積み立てるのです。しかし、日本の教会は海外支援により頂いた建物を評価するなど考えもせず、また当時は新しく建て直すなど、考えも及びませんでした。そして現聖堂の価値基準を定め、積み立てるようなことはしてきませんでした。それは頼めばどこからか献金という手を差し延べてくれるという信仰だったのかもしれませんが。だから新築の聖堂に向けて積み立てることをしている教会はほとんどありません。現在各教会では、わずかながら積み立てていたとしても土地や建物の価値、物価の高騰で同等のものは建てられない状況は明らかです。少しでも延命を図るために修繕積立をしている教会が多いと思いますが、それは手直しをするだけにとどまり建物が朽ちた時に新築する体力は残されていません。

## ●だれが支えるのか

教区事務局はすべての教会のための積み立てをしていないのかというお叱りを受ける事もあります。教区が行うならば、各教会の分担金をあげるしかありません。本来は各小教区が積み上げるべきものですが、どちらにしても早くからその実力はなく、修繕費を積み立てる事すらままならない状態です。結論から言えば、各教会は延命の道しか残されていません。屋根・外壁・暖房・下水道等々、建物(躯体)がボロボロにならないように周りを直して長生きしてもらおうというのが関の山。躯体がボロボロになった時には、もう手の施しようが無くなります。その時にはどこからか莫大な支援金をいただくか、教会をたたむときです。これは計画できない事柄となります。

実際解体費用すら捻出できないので、壊すこともできないまま負債となる教会が続出していきます。その負債は教会宣教活動資金すら妨げます。建物が治せなくなる時がその教会が終わるときです。誰も支えられません。

## ●今できる事

建物を長く持たせるために、①しっかりと修繕していくこと。そのために修繕積立をする事。②建て直しを求めらるならば、早くから積立を行う事。今あるものを大切に、経費を抑え新築献金を伸ばす事。これに他なりません。それもかなわない場合は、残念ながら教会は危険な建物と

札幌教区内の教会の存続が危ぶまれるなか、釧路の新川教会や小樽の住ノ江教会の廃止によりその危機が現実化してきた。今一度自分の事として捉えるために、すべての小教区に伝えなければという法人事務長としての使命に基づき、勇気をもって語ることにした。

なる前に廃止を決断する必要があります。共同体は近隣の教会と一緒に生きていきます。しかしその教会も長くは続かないでしょう。

## ●教会のおきて「献金」

教会はすべての人の献金によって成り立っています。どこからか(海外)頂くものではなく、自分たちで存続させなければなりません。その為にはすべての人に「献金」をお願いしなければなりません。誰かの代わりに「献金」するのではなく、自分の教会の為、自分の信仰を守るために「献金」をするのです。昨今「教会でお金の話をするなんて」という声も聞こえますが、初代教会の時代から弟子たちを取り巻くキリスト教信望者によるこの「献金」によって発展してきたことを忘れてはいけません。だから『おきて』に組み込まれたのです。教会を生きることが教会を支えるのです。それは各個人の役目です。

## ●教会を閉じる事

教会を閉じることは恥ではありません。信仰を生きるために共同体を守り、集まること。その場所は今いる場所とは限りません。自分の利便性、過去の栄光や思い出といったノスタルジーで教会をとらえてきた歴史が、日本の教会の動きにストップをかけています。信徒「籍」といった所属意識は日本独自の発想です。外国ではそのようなシステムはありません。ミサ献金、一般献金しかありません。その代わり国税で宗教税がある国が多くあります。その助けによるところが強いかもしれません。しかし、昨今宗教税に対して否定的な人々も増え、教会資金そのものが目減りし、外国でも教会を閉じる場所が増えてきています。そのことを考えると、私達も他人ごとではありません。改めて見直し、覚悟する必要性が出てきました。

## ●教会の経費の削減

不便なく教会で活動できることは嬉しいことですが、それは時には自ら首を絞めている行為となります。今一度小さなものに目を止め、なげなしの献金を大切に、そして後世に引き継いでいかなければならないことを思い起こしましょう。そもそも、今の教会は私たちの先代から引き継いできたものであるし、その前は外国の恩人からいただいたものだからです。少しでも長く、今の建物が維持継続できるように次の事を考え、何を手放し、何を残すかの取捨選択が必要であろうと感じられます。借金や負債を後世に残してはいけません。残すべきは信仰・希望・愛のみです。

## ○結論

- ・新築積立金を持たない教会は、その建物が安全であるかぎり可能だが、修繕積立金を貯え、延命を行う。
- ・建て直す資金がある場合には近隣の教会共同体を引き受け共に歩むことを模索する。
- ・教会運営経費を、できる限り絞り、積み立てに回すよう努力する。
- ・献金を強く呼びかけていく。



カリタスインターナショナル国際キャンペーン【Together We (トゥギャザー・ウィ) = 共に私たちは】は、教皇フランシスコの回勅『ラウダート・シ』『兄弟の皆さん』に示された呼びかけに応え、地球や弱い立場に追いやられた人々の叫びに耳を傾けながら、相互配慮をベースとしたケアの共同体(愛の実践共同体)を促進し、ともにケアの文化を構築しようというもの。

最終年となる今年、パネル写真展と「ともにロウソク」を灯しての祈りの集いが全国で開催されており、札幌教区では6月1日からリレー形式で、北一条教会(札幌教区カトリックセンター)、苫小牧教会、旭川五条教会で実施された。このキャンペーンは9月で終了するが、各小教区の希望によってその後も継続する。実施を希望する小教区は教区事務局まで。※カリタスジャパンウェブサイトでは全国での取り組みが紹介されている。Together We「ともに」<https://www.caritas.jp/2023/09/21/5811/>

## 青年の集い in FMM



4月27日、FMM札幌修道院で、シスターと青年との分かち合いの集いを開催し、10名ほどの青年が集まりました。

分かち合いでは聖書の箇所を実際に演じてみるということをしました。実際に演じてみることで、どういう状況なのか、人々がどんな気持ちだったかを感じることができました。みんなも演じるためにイエス様が何を伝えたかったのかなどを考え、聖書の言葉に触れることが出来たと思います。

仕事の関係などでなかなか教会に来れなかったり、教会への興味が薄れてきてしまう青年も多いのですが、こうして聖書の言葉や分かち合いに興味を持って多くの青年が参加してくれたことに、開催することの意味を感じました。これからもこの灯火を絶やさないように活動を続けていきます。(山田康平)



## 世界祈禱日2024

パレスチナの平和を祈る

5月18日(土)午後、カトリック北一条教会及び隣接札幌教区カトリックセンターで、札幌では4年ぶりの「世界祈禱日」が開催されました。主催：カトリック札幌教区エキュメニカル委員会、協力：札幌キリスト教連合会。

「世界祈禱日」は、キリスト教の諸教会が、女性を中心に開いてきた超教派の祈禱集会です。4年間、開催できなかったのは、コロナと、担当教会の負担が大きすぎて引き受け手がなかったことが要因でした。そこで準備を簡略化し、開催日も伝統的には3月初金でしたが、雪を避けて5月にずらせました。

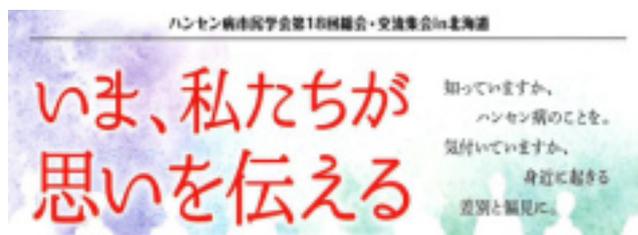
毎年変わる式文作成国が、今年はパレスチナでした。それで、合同礼拝の前にパレスチナの歴史と現状についてのミニ講演を入れ、一般の方にも参加を呼びかけました。そもそも教会の建物に入ることのない人が、一人でも多くカトリック北一条教会の聖堂に入り、カトリック、プロテスタントの人々が心をつなげてパレスチナの平和を祈る姿を見ることで、福音宣教の場にもなるのではないかと考えたからです。蓑島克哉神父の司式、日本聖公会・笹森田鶴主教の講話、日本キリスト教団・日本キリスト教会・カトリック札幌教区正義と平和協議会の3人の女性リーダーによる進行、さらに救世軍・矯風会・福音ルーテル教会の3人の女性がパレスチナ女性のメッセージを代読しました。

おかげさまで参加者は165人、オンラインでの参加者も20人にのぼり、成功のうちに終わることができました。協力いただいたすべての方々へ感謝しております。(エキュメニカル委員会代表・小野有五)




**カトリック札幌司教区**  
**ハラスメント対応デスク**  
**080-2879-3168**  
 火曜～金曜 12:00～16:00  
 祝日夏季冬季休業日除く  
 ✉ [sapporo.harassmentdesk@gmail.com](mailto:sapporo.harassmentdesk@gmail.com)


## ハンセン病考える市民集会



国の隔離政策により元患者が差別を受けた、ハンセン病の歴史を考える市民集会が、5月11日、12日、かでる2・7で約300人の参加者を集めて開催され、カトリック札幌司教区正義と平和協議会も本学会構成団体としてボランティア協力した。

1日目の検証会「家族の『見えない差別』を可視化する」では、元患者の家族が長い間凄惨な差別を受け、現在もその差別を恐れるトラウマからPTSDを引き起こしている実態が明らかになった。

2日目は4会場に分けて差別や偏見の解消をテーマにパネルディスカッションが行われた。私は、教育分科会「見つける・見直す・見届ける」に参加した。実践授業がある教師は「ハンセン病問題は、日本の人権教育にとって『宝の山』であるので、色々な教科と

共有できる。いずれも、子どもの視点から社会を見つめること」を強調される。会場からは、鹿児島県の高校生が「学んだことを他の生徒に授業する」という体験学習を通して、正しい情報を伝えることの大切さを語ってくれた。2日間を通して、私たちは神の目を持つことはできないので、共に学び、分かち合う必要があり、そのための『市民学会』だったと理解した。(札幌司教区正義と平和協議会・下川原瑞恵)

## パレスチナ医療子ども支援

6月29日、札幌司教区カトリックセンターにて、第15回パレスチナ臨時医療子ども支援活動の帰国報告会が行われた。主催は同奉任団。教区正平協と札幌近郊のピース9の会が共催。会場100名、オンライン65名が参加。

6月8日、15日、医師猫塚義夫奉仕団団長ら一行4人は、パレスチナ自治区ヨルダン川西岸を訪問。住民の診療などの支援を行った。昨年10月のイスラエルとハマスによる武力衝突以後、中断していた活動の再開となった。40℃を超える猛暑の中、4つの難民キャンプを訪問。テントではなく、狭い路地に囲まれた住宅地。パレスチナ国旗やパレスチナ犠牲者たちの写真は撤去され、外国からの珍客にまず子

供が集まってくるという以前の日常は消えていた。子どもは家から出ることができなく、大人も夜は外出できない。仕事はなくティッシュペーパーなどを売り歩き小銭を稼ぐ住民たち。恐怖と貧困で町全体が暗く沈んでいた。診療希望者は待合室に溢れ、英語で書いた診断書を大事そうに持ち帰る人々の後ろ姿が目についたと猫塚氏は語った。猫塚氏の報告は、教区JP通信121号(7月末発行)に掲載。(島居明子)



猫塚医師

## お知らせ

【平和祈願ミサ・平和祈禱集会】  
8月15日(木)17時、カトリック北一条教会(北一条東6)にて勝谷太治司教司式による平和祈願ミサ(教区主催)が行われる。また、同日18時45分からは日本聖公会・札幌キリスト教会(北7条西6・北大南門前)にて、「8・15平和祈禱集会」(札幌キリスト教連合会・信教の自由を守る委員会主催、カトリック札幌司教区エキュメニカル委員会共催)が行われ、カトリック名古屋教区・松浦悟郎司教が講演する。終了後、大通り公園まで有志による「平和行進」も予定。

■ 8月15日 平和祈願ミサ(教区主催) 17:00  
会場:カトリック北一条教会・勝谷太治司教司式  
■ 8.15平和祈禱集会講演会(参加無料) 18:45  
会場:日本聖公会札幌キリスト教会  
講演:松浦悟郎名古屋教区司教  
「非暴力による平和への確信とゆらぎ  
～いま聞こえる 戦争の足音の中で～」  
問合せ先:エキュメニカル委員会代表  
小野有五 090-3110-5930



■■お願い■■  
お盆を控え墓参の機会も増える頃を迎えました。共同墓地の墓参後は、供花は必ずお持ち帰りください。ゴミ置き場には捨てないでください。共同墓地の美化にご協力ください。

### クリプト札幌

カトリック札幌司教区納骨堂  
札幌司教区カトリックセンター地下  
家族壇568区画・合葬壇730  
天候問わずいつでも墓参可能

お問い合わせ 〒060-0031 札幌市中央区北一条東6丁目10 札幌司教区本部事務局  
電話 ■白石共同墓: 011-241-2785 ■クリプト札幌: 011-221-4244  
いずれも平日9:00~17:00 (土曜日曜祝日及び夏季冬季休業を除く)

### 白石共同墓

札幌市白石区平和通10丁目北5-1  
札幌市白石本通墓地

札幌司教区の司祭・修道者・信徒ならびにその家族を対象とした合葬墓

1937（昭和12）年7月7日、回目を迎え、戦後80年になるため、北京郊外の盧溝橋で日中両軍いざいざの発砲から始まった偶発的な衝突は、日本軍が全面的な戦闘に突入する口実となり、日中戦争（1937年7月～1945年8月）の契機となった。盧溝橋事件とも呼ばれるこの日を心に止め、遠くない過去に私たちの国が犯した植民地支配、侵略戦争についての反省に立った上で、アジアの平和を願い、日本の軍

拡に反対すること  
を目的に札幌では  
市民団体が毎年7  
月7日に集い、  
「7.7平和集会」  
を開催していた。  
39回目を迎えた  
今年の実行委員会  
ではいろいろな意見があった。パ  
レ  
スチナ、ウクライナ、ミャンマー、  
アフガニスタンなど、ここ数年の世  
界の情勢は、どこかで戦いが行われ、  
それがどこも終息することなく、続  
いている。盧溝橋事件の日に私たち  
はどんな平和を願うのか…テーマが  
なかなか決まらなかつたこともあり、  
大きな決断ではあつたが、今年の開  
催を見送ることとし、平和への声明  
文だけは出そうとなつた。その代わ  
りではないが、来年で平和集会は40  
回・西（千津）

## ともに生きる

### 戦後80年

ナム戦争（1955年11月～1975年4月）の話をしたことはない。私自身もまだ子どもだつたのでよく知らないし、彼らはもつと若い世代なので詳しいことを知らない場合が多い。一方で、ミャンマーから来た青年たちは、リアルタイムで国内に起きてることを知つていて。今年2月、国軍が徴兵制を始めると発表されたことに伴い、国外脱出を決意した人が増え、いつ帰ることができるとかもわからないまま日本で暮らし始めている人もいます。平和句間、あなたはどんな平和を願い、祈るだろうか。（札幌教区難民移住移動者委員会・西（千津）

### 北海道カトリック幼保連盟 新任教職員研修会

コロナ禍が収束に向かい、3月24日、はじめの対面形式のみの標記研修会が札幌教区カトリックセンターで開催された。全道各地より、新しくカトリック園へ勤務する48名とスタッフ9名が一堂に会し、各地区を代表する研修委員を中心に和やかな雰囲気の中で行われた。



父を講師に  
迎え、「カ  
トリック園  
のこころ」  
というタイ

トルで、根本的なキリスト教の考え方を分かり易くお話し戴いた。また、研修委員の先生方を中心としたグループ

ワークの時間では、手遊びを紹介し合ったりする楽しい時間となつた。  
（品田典子）

### 北海道カトリック中高連盟 春季委員会・総会

新年度が始まつて間もない4月19日、札幌光星学園を会場に、春季委員会（道内中高の校長会と総会）校長と宗教科教員を中心とした会議が開催された。函館や北見からも長時間をかけて参加され、コロナ禍では成し得なかつた対面形式の会議の良さをあらためて実感した次第。会議では、2023年度の事業報告と決算ならびに2024年度の事業計画と予算が承認され、連盟の新しい一年が始まつた。

総会後は会場を移し、懇親会によつて親睦を深めた。いま、カトリック学校に限らず全ての私立学校が、日本の少子化時代の学校経営や運営に悩み活路を見いださうとしていることもあり、参加者は各校の近況報告に耳を傾けながら、活発な情報交換を行つていた。

教皇フランシスコは、カトリック教育の意義を強調し、学校のみならず、全社会が参加する新しい教育への取り組みを呼びかけている。今回、勝谷太治司教も会議から懇親会まで同席され、カトリック学校を担う先生方との交流を大切にして下さつたことに感謝を申し上げます。  
（品田典子）

## 訃報

### ◆マリアの宣教師 フランシスコ修道会



Sr. M. リドヴィナ  
樫野 登美子

6月17日午後11時55分、創成東病院にて神様の命もに召されました。94歳。  
【略歴】

1929年12月7日生まれ  
1953年3月17日入会  
1958年3月19日終生誓願  
2023年3月17日ラチナ祝

### あじかり 編集後語

シンコウよりもケン  
コウ。いや、ケンコウ  
よりもシンコウ。「ど  
ちらが先か論争」とい  
うものがある。神学生  
時代、神学校養成司祭  
たちからは「健全な体  
に健全な信仰が宿る」  
と教えられた。不健全である、自  
我が主張を強く持ち、神の音が聞  
えなくなるという。確かに自分の事  
に精一杯ならば、他者の事を優先で  
きない。隣人愛より自己愛に。だか  
ら健康をしっかり守るよう努力する  
のは、ひいては良い信仰を成り立  
てる為であり、他者を優先しない  
という忸りの「罪」にはならない。で  
もこれを言い訳にはいけないん  
だろうなあ。  
（松村繁彦神父）